

## 「仮想都市とVR」特集号にあたって

### Special Issue on Cyber Space and Virtual Reality

小川剛史\* 小林稔\*\* 山下淳\*\*\*

Takefumi Ogawa\*, Minoru Kobayashi\*\* and Jun Yamashita\*\*\*

インターネット接続のブロードバンド化やモバイル化が進展する中、ネットワークコンテンツとして仮想世界が注目を集めています。特に2007年度には「セカンドライフ」をはじめとするメタバースの登場がメディアを賑わせ、仮想都市での事業成功を目指して生活の大半をその中で過ごす人々すら現れています。また、地域情報誌ならぬ3D仮想空間情報誌が発売されたりもしており、人々の生活において仮想都市が重要な役割を担いつつあると言っても過言ではありません。しかし一方で、仮想都市の中では多様な社会問題も発生しており、人々が希望や夢だけでなく、多くの不安を抱えていることも事実です。

本特集号では、バーチャルリアリティ技術や情報通信技術が仮想都市における社会を構築・維持する上でどのように貢献できるのか、技術的側面からの取り組み、あるいは心理的、哲学的、社会・経済的な側面からの検討に関する論文を広く募集しました。その結果、15件の投稿（基礎論文8件、応用論文3件、コンテンツ論文3件、総説論文1件）をいただき、厳正なる査読の結果、9件（基礎論文6件、応用論文2件、コンテンツ論文1件）が掲載される運びとなりました。掲載される論文は、仮想都市の設計・デザインに関する論文や、VR空間もしくは複合現実空間におけるナビゲーション操作インタフェースに関する論文、生体情報によるプレゼンス推定に関する論文、仮想空間の操作インタフェースの評価に関する論文など、仮想都市やサイバースペースとその応用に関する非常に幅広いテーマの論文となっています。これらの論文の成果を元に、さらに進んだ研究や応用が、より盛んに行われることを期待いたします。

最後に、本特集号の機会を与えていただいた論文誌委員会の皆様、優れた論文を投稿いただいた著者の皆様、ご多忙中にも拘わらず迅速かつ丁寧な査読をしていただいた皆様をはじめ、関係者各位に心より御礼申し上げます。

---

\* 東京大学

\*\* 日本電信電話株式会社NTTサイバーソリューション研究所

\*\*\* 筑波大学

\* The University of Tokyo

\*\* NTT Cyber Solutions Laboratories, NTT Corporation

\*\*\* University of Tsukuba